

香川県広域水道企業団 水道事業 地区別意見交換会 議事録

東讃ブロック統括センター

開催日時	令和7年12月12日（金） 14:00～15:30
開催場所	香川県広域水道企業団東讃ブロック統括センター 1階会議室
出席者	委員8名 企業団職員6名
傍聴者	なし
内容	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>（1）令和6年度決算概要について</p> <p>（2）水道料金の統一について</p> <p>（3）その他</p> <p>3 閉会</p>

要 旨

委員 企業団 委員 企業団	<p>1 開会 所長が挨拶を行う。</p> <p>2 議題</p> <p>（1）令和6年度決算概要について 企業団より説明を行う。 「漏水に対する早急な対応策は。」 「老朽管路更新を進める。」 「漏水を予測する様な方法は無いのか。」 「漏水調査を実施し早期発見に努めている。」</p>
委員 企業団 委員 企業団	<p>（2）水道料金の統一について 企業団より説明を行う。 「使用量が3万トン減ると収入はどれくらい減少するか。」 「単純計算であるが、約420万円程度の減少となる。」 「現在の高松市の料金はどの程度なのか。」 「さぬき市の現状と同程度。東かがわ市は令和7年度の料金改定により高松市を上回っている。」</p>
委員 企業団	<p>「今回30%値上げし、また次も値上げという事が起こるのでは。」 「算定期間を3年に設定しているため、3年後に改めて検討されることになる。」</p>
委員 企業団	<p>「市町によっては高松より高いところも低いところもあるのではないか。」 「現状格差がある中で、料金の妥当性については水道事業等審議会で検討を重ねている。」</p>

委員 企業団	「施設をコンパクトにしていくと、渇水時等に困るのではないか。」 「水源についてはそのままとし、それを浄水していく施設の統合等を検討する事としている。」
委員 企業団	「水質基準を下げて、経費を抑えるという考えはないか。」
委員 企業団	「人の口に入る水道である以上、その考えはない。」
委員 企業団	「水道は人口が少なくても供給する必要がある。今後運搬給水等は考えているのか。」
委員 企業団	「水道管の更新に比べ効率的であるなら、運搬給水も視野に入る。運搬量に限りがあるため、費用対効果を検討することも必要。」
委員 企業団	「料金統一の時期はいつになるのか。」
委員 企業団	「現在の予定では令和10年4月からとなる。」
委員 企業団	「統一料金はいくらくらいになるのか。」
委員 企業団	「現在、平均改定率30%程度を基準に水道事業等審議会にて検討中である。」
	(3) その他 委員より事前に要望のあった質疑について説明を行う。
委員 企業団	「水道料金の年間金額が家計に占める割合の年度別推移はどのようになっているのか。」
委員 企業団	「県が公開している高松市の資料を見ると、平均1.47%程度で推移している。毎年高くなっているような事はない。」
委員 企業団	「水道管破裂等の事故に対し、費用対効果を考慮した有効な対策は。」 「全国的に大規模な事故が発生しており、どの事業者も老朽管更新に必要な財源確保には苦慮している。老朽管更新は待ったなしの状況であり、緊急性の高い箇所から優先順位をつけ、計画的に更新していく。」
委員 企業団	「令和7年度の収益的収支は赤字か黒字か。」 「期中であり、回答は差し控えたい。」
委員 企業団	「料金統一後の財政的持続可能性はどのように確保するのか。また、料金改定の必要性は。」 「令和10年度以降の水需要予測、給水収益、必要経費の見通し、老朽施設の更新事業、耐震化事業の実施必要額等を考慮し、国の交付金や補助金、企業債などを活用しつつ、財政的持続可能性を確保するため、料金改定の必要性や、その改定率についても、水道事業等審議会等で十分に議論しながら進めていく。」

<p>委員 企業団</p>	<p>「水道管の老朽化に対する取り組みは。」 「老朽管路の更新は急務。同時に、耐震化も進めていく必要がある。必要な更新計画を立て、優先順位をつけながら更新を進めていく。」</p>
<p>委員 企業団</p>	<p>「人口減少に伴う水道事業の今後は。」 「今後は水道料金収入の減少が予測されるとともに、物価高騰による費用高騰や、更新事業や耐震事業を進めていく上で必要となる費用は年々増加傾向である。しかしながら、水道は命に係わる重要なインフラであり、効率的運営を行うとともに、料金改定も含めた財源確保に努め、効率的に水道事業を運営していく。」</p>
<p>3 閉会</p>	